

令和4年度 採材現地検討会の開催

令和4年9月28日、遠野市附馬牛町上附馬牛 一本^{ぶな}榎国有林において、当該地の素材生産事業請負者である遠野地区国有林材生産協同組合の協力により、伐採木をどのように切り分けて素材（丸太）を採るかについての採材現地検討会を開催し、総勢23団体60名に御参集いただきました。

本検討会は、4m採材による労働生産性の向上や販売収入単価の向上のため「針葉樹合板材の4m採材比率向上」、広葉樹を使った製品等の需要に対する有利販売のため「広葉樹一般材の採材比率向上」を目的とし、カラマツ2本、広葉樹4本の供試木を準備し、参加者の一部に協力いただき、5グループで供試木の採材方法を検討していただきました。



採材を悩ませる供試木



採材検討状況

採材検討の前段では、東北森林管理局青森事務所から丸太の需要動向の説明に続き、岩手県森林組合連合会からは広葉樹一般材の伐採時期や長さ・太さに応じた採材方法、針葉樹を含めた市況の説明に加えて直近の合板材流通事情などの情報提供があり、参加者は昨年のウッドショックからの市況変化に耳を傾けていました。

採材方法は同じ供試木でもグループ毎に採材視点が異なり、参加者の一人ひとりでも異なる結果になったことと思います。実際の現場ではゆっくりと検討する時間はないと思いますが、このような機会にじっくり検討し、見る目を養うことが重要であると感じました。

各グループの検討結果発表後は、岩手県森林組合連合会より“造材に正解はない”という前置きのもと検討結果についてご意見をいただき、参加者は各自の採材視点と照らし合わせていたことと思います。また、カラマツ合板材の曲がり許容の見解もあり、グループによって2m採材としたものも4m採材を考える機会となりました。広葉樹の採材については、生き節であることや材側面を製品にするため中心部の軽微な腐れは許容されるなどの説明があり、参加者は一般材の採材可能性があれば積極的に採材すべきであると認識を深めたことと思います。

今回の採材現地検討会により、採材視点等の認識が共有でき有意義な時間となっていれば幸いです。

関係各社の皆さまには、今後とも国有林野事業へのご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

